

令和3年度文化芸術による子供育成総合事業－巡回公演事業－

ワークショップ実施計画書

制作団体名	一般社団法人 日本テレマン協会
公演団体名	テレマン室内オーケストラ

内容
【内容】 ①観賞指導 最初に本公演でお聴きいただくバロック音楽の魅力やその概要を理解して頂くために、バロック音楽がクラシック音楽の中でどういったポジションを占めるのか、18世紀当時はどういったものであったかということ説明いたします。その際、同行しております楽器奏者(チェロ奏者など)から楽器についての説明もいたします。また、実際の演奏の様子を当団作成のDVDを使用しつつご紹介いたします。 ②ミニコンサート 歌手と楽器奏者によるミニコンサートを実施致します。 ③歌唱指導 共演予定の演目の歌唱指導をさせていただきます。この時に前奏・間奏・後奏の有無、繰り返しの有無などの他、事前に開催校から取り寄せた楽譜と実際の演奏における細かな差を記録し、後日編曲者に報告します。児童・生徒の皆様には「いつも通り」の伴奏が室内オーケストラ版になった状態で共演して頂くためです。 ④バロックダンス指導 本公演の体験プログラムで実施予定のバロックダンスについて、「ガヴョット」のステップについてご説明し、楽器奏者のガヴョットの演奏に合わせてダンスの練習をいたします。 【備考】 参加者の人数に応じて、体育館や音楽室を使用して実施いたします。また、本公演での共演をより円滑に進めるために、同行する器楽奏者は演奏する以外にもワークショップの様子を観察・分析・記録します。また、その他の細かな状況については、器楽奏者から事務局を経て、整理された情報が本公演の演奏者に伝えられます。

タイムスケジュール (標準)
WS30分~1時間前に到着→WS(2時間)→本公演に向けてのお打ち合わせ(30分程度)

派遣者数
合計 (2名) 指導者 (1名) 器楽奏者(1名)

学校における事前指導
ワークショップ実施までに音楽の授業等で共演予定曲をある程度ご指導いただけましたら幸いです。また、それ以外の内容をワークショップで行う学校も、同様の下準備的指導をしていただければ幸いです。ワークショップ時に特別に留意すべき点やご希望があればお知らせ頂けますようお願いいたします。

令和3年度文化芸術による子供育成総合事業－巡回公演事業－

本公演実施計画書

制作団体名	一般社団法人 日本テレマン協会
公演団体名	テレマン室内オーケストラ

演目	
◆J.S.バッハ:管弦楽組曲 第3番 ニ長調 第1楽章	
◆弦楽器のお話	
・弦合奏 - J.S.バッハ:G線上のアリア	
体験プログラム クイズコーナー	
・ヴァイオリン - J.パッヘルベル:カノン ニ長調	
・ヴィオラ - G.Ph.テレマン:ヴィオラ・ソナタ 変ロ長調 2楽章	
・チェロ・コントラバス - A.ヴィヴァルディ:チェロ・ソナタ 第6番 Preludio	
体験プログラム ヴァイオリンを弾いてみよう! - J.S.バッハ:ガヴオット ト長調	
◆チェンバロのお話	
J.S.バッハ:インヴェンション 第1番 ハ長調	
◆体験プログラム バロックダンスのコーナー～ガヴオットを踊ってみよう!～	
・J.S.バッハ:管弦楽組曲 第3番ガヴオット	
◆G.Ph.テレマン:食卓の音楽 第2組曲 終曲	
- 休憩 -	
◆金管・打楽器のお話	
・J.F.ファッシュ:3つのトランペット、2つのオーボエとヴァイオリンのための協奏曲 ニ長調 第1楽章	
◆体験プログラム 指揮者体験コーナー	
・G.F.ヘンデル:「水上の音楽」第二組曲 より ブーレ	
◆木管楽器のお話	
・オーボエ,ファゴット- T.アルビノーニ:2つのオーボエのための協奏曲 第1楽章	
・リコーダー - G.F.ヘンデル:リコーダー・ソナタ	
G.Ph.テレマン:リコーダーとチェロのための協奏曲第3楽章	
◆歌のコーナー	
・G.F.ヘンデル:オンブラ・マイ・フ	
◆体験プログラム 共演のコーナー	
◆G.Ph.テレマン:	
3つのトランペットとティンパニのための協奏曲 ニ長調 TWV55:D3 第4楽章	
	公演時間(90分)

派遣者数
出演者: 21名 スタッフ: 2名 合計: 23名

タイムスケジュール (標準)								
8	9	10	11	12	13	14	15	16
	搬入	リハーサル			開演		終演	撤去・退館

実施校への協力依頼人員

楽器運搬車にてチェンバロを搬入致しますので、ご担当者様に校門から駐車スペースまでご誘導頂けましたら幸いです。また、リハーサル時には音楽のご担当教員の方に共演曲のテンポのチェックをお願い致します。

演目解説

◆J.S.バッハ:管弦楽組曲 第3番 ニ長調 第1楽章

大バッハの代表作であり、金管・打楽器を含む比較的大きな編成で祝祭的な雰囲気のある曲です。当時流行していたフランス風の様式を取り、荘厳な序奏と華やかな協奏曲風のフーガから成り立っており、バロック音楽の世界観への導入としてふさわしい作品です。

◆楽器のお話

各楽器がフィーチャーされた曲を、それぞれの楽器の紹介を交えながら演奏することで、楽器について学びながら本格的な作品を鑑賞していただくことが出来ます。

・弦合奏 - J.S.バッハ:G線上のアリア

1曲目に演奏する管弦楽組曲第3番の第2曲に当たります。金管・打楽器を含む華やかな曲想から、一転して弦楽器とチェンバロのみの穏やかな曲調となっています。各弦楽器のご紹介に先立ち、弦合奏の響をお聴き頂きます。

・ヴァイオリン - J.パッヘルベル:カノン ニ長調

誰もが知る名曲であり、2小節ごとに形が変化していくという構造もシンプルであることから、ヴァイオリンの魅力を最大限に感じて頂くことが出来ます。

・ヴィオラ - G.Ph.テレマン:ヴィオラ・ソナタ 変ロ長調 第2楽章

本曲も「カノン」の形式を取った曲となっております。ヴァイオリンの紹介で選択したパッヘルベルのカノンは、旋律のみがカノンとなっておりますが、本曲では旋律と伴奏がカノンとなっております。ヴァイオリンとはまた違った音色を持つヴィオラですが、「人の声に最も近い」と言われるヴィオラの魅力を感じて頂きます。

・チェロ・コントラバス - A.ヴィヴァルディ:チェロ・ソナタ 第6番 Preludio

チェロとコントラバスによる二重奏(チェンバロ付き)で演奏することで、普段は縁の下の力持ちである両楽器に着目し、その魅力を感じて頂けます。

・チェンバロ - J.S.バッハ:インヴェンション 第1番 ハ長調

チェンバロを紹介するために、ピアノを学習している児童・生徒の皆さんにも馴染みがあるであろう作品を選びました。お馴染みの曲が、楽器がピアノからチェンバロに代わることで、全く違った印象になるということを実感していただきます。

◆金管・打楽器のお話

・J.F.ファッシュ:3つのトランペット、2つのオーボエとヴァイオリンのための協奏曲 ニ長調 第1楽章

ファッシュはバッハやヘンデルと同時代に活躍した作曲家です。当時は大変人気のあった作曲家で、バッハもその作品を写譜したという逸話が残っています。この曲はトランペットとティンパニが活躍する華やかな曲です。

◆木管楽器のお話

・オーボエ、ファゴット - T.アルビノーニ:2つのオーボエのための協奏曲 第1楽章

アルビノーニは清澄で上品な旋律美が特徴とされることから、両楽器の魅力を十分に感じて頂けます。

・リコーダー - G.F.ヘンデル:リコーダー・ソナタ より

G.Ph.テレマン:リコーダーとチェロのための協奏曲第3楽章

リコーダーのソナタを聴いていただいた後は、独奏楽器としてのリコーダーを聴いていただきます。テレマンの協奏曲ではリコーダーとチェロが独奏楽器として対等な位置にあり、リコーダー

が他の楽器に引けを取らない、バロック時代の花形楽器であったことを実感して頂けます。

◆歌のコーナー

・G.F.ヘンデル:オンブラ・マイ・フ

ヘンデルの作品群の中でも最も重要なポジションを占めるオペラから、アリアをお聴きいただきます。

◆G.Ph.テレマン:食卓の音楽 第2組曲 終曲

18世紀当時、バッハを凌ぐ名声を誇り、5000曲以上作曲したといわれる作曲家、テレマン。バッハよりもバロック時代の「スタンダード」と言える作品を多く書いており、随所に聴き手を惹きつける仕掛けが施された「楽しさ」を重視した作風でした。テレマンの代表作「食卓の音楽」は宮廷での食事の際に演奏された室内楽曲を集めたもので、その出版に当たっては国外からも予約注文が殺到したとされる名曲です。

◆G.Ph.テレマン:3つのトランペットとティンパニのための協奏曲 ニ長調 TWV55:D3 第4楽章

この協奏曲はトランペットをはじめとする管・打楽器が活躍し、とても華やかな曲です。冒頭のバッハの管弦楽組曲第3番と同じ編成ですが、厳格な書法にこだわったバッハと当時の流行を意識したテレマンの作風の違いを感じて頂ければと思います。

◆体験プログラム バロックダンスのコーナー～ガヴォットを踊ってみよう！～

・J.S.バッハ:管弦楽組曲 第3番ガヴォット

バロック時代に宮廷で踊られたガヴォットを、宮廷での式典を彷彿とさせるバッハの「管弦楽組曲」第3番のガヴォットで踊って頂きます。

◆体験プログラム 指揮者体験コーナー

・G.F.ヘンデル:「水上の音楽」第二組曲 より ブーレ

ヘンデルの代表曲「水上の音楽」より速い二拍子の曲「ブーレ」で指揮者を体験していただきます。

児童生徒の公演への参加方法、公演に参加させるための工夫

バロック音楽を体感していただけるよう、5種類の体験プログラムを準備いたしました。うち3種類は全員で体験していただくもの、2種は選抜メンバーに体験していただくものとなっております。

全員で体験していただく内容

・クイズコーナー

作曲家や楽器にまつわるクイズを出題し、お答えいただきます。ただ鑑賞するだけでなく、その背景について想像し、考えることで、より深く鑑賞していただけます。

・バロックダンスのコーナー～ガヴォットを踊ってみよう！～

(J.S.バッハ:管弦楽組曲 第3番 第3曲「ガヴォット」)

バロック時代に宮廷で踊られていたガヴォットは、ステップのみのシンプルなダンスです。そのガヴォットを、楽曲に合わせて踊ってみることで、身体表現を通じて楽曲のイメージを捉え、バロック音楽の楽しさを体感していただけます。

・共演のコーナー

普段の音楽の授業などで取り扱われている楽曲を、ピアノ伴奏ではなく室内オーケストラの伴奏で歌って頂きます。具体的な演目については、事前にご希望をお伺いし、楽譜をお送りいただき、編曲致します。特にご希望のない場合はこちらから曲を提案させて頂いております。

選抜メンバーに体験していただく内容

・ヴァイオリンの体験

(J.S.バッハ:ガヴオット ト長調)

ヴァイオリンの弓で弦を振動させ、音を出してみるという体験となっております。一番低い弦の開放弦(左手の指で押さえない音)のみで演奏可能な曲を使用し、実際にアンサンブルに加わっていただきます。

・指揮体験コーナー

(G.F.ヘンデル:「水上の音楽」第二組曲 より「ブーレ」)

バロックの楽団を指揮するという体験をして頂きます。演目は短い二拍子の舞曲で、全曲を通して指揮していただきます。短いながらもフレーズの切り替わりや曲想の変化など、指揮者によって表現を変えられる部分があるので、指揮の難しさや楽しさを体感していただけます。

また、上記 5 種のほかにも吹奏楽部や弦楽部などとの共演のご希望がある場合は対応いたします。

児童生徒とのふれあい

アンコールでは、事前にお送り頂いている「校歌」をこちらで編曲し、当日の演奏会最後に会場全体で歌って頂きます。普段はピアノ伴奏で歌われている校歌を室内オーケストラの伴奏で歌うと、自分の学校の「校歌」の美しさを見学・生徒の皆様だけでなく、先生方も再認識されることが多くあります。

また、ご希望があれば公演終了後に児童・生徒の皆様との交流会(ご感想やご質問等)を実施することが可能です。

